



Special Olympics

Nippon
Toyama

ハートフル・ニュース

発行 : スペシャルオリンピックス日本・富山

URL <http://www.SON-toyama.jp/>

No. 1 6
2006/2/17

事務局 : 〒939-8208 富山市布瀬町南2丁目10-14

TEL : 076-400-7736 (FAX 兼用) Email : info@SON-toyama.jp

スペシャルオリンピックスは、知的発達障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。SO では、これらのスポーツ活動に参加する知的発達障がいのある人たちをアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーと一緒に活動を支えています。ここ富山でも SO が活動しています。現在延べ約 110 名のアスリート会員が5つの競技種目に取り組んでいます。



■エッセイ

★「今、ファミリーの力が必要です！」

「母はスペシャルオリンピックス日本の理事長としてその発展に全力を注いでいます。富山で活動が始まったら協力してください。」仕事の関係で夫と食事を共にしたその若い女性は、スペシャルオリンピックスの素晴らしさを熱く語り、しばらくして世界大会のビデオを送って下さいました。2002 年秋のことでした。

やがて2003年3月大島町で細川理事長の講演を聞き、同年10月、次女・明里^{あかり}は初めてフロアホッケーに参加しました。

翌年2月に出場した長野でのナショナルゲーム。アスリートたちは堂々と入場行進や試合に臨み、立派に戦いました。このことが私達に大きな感動を与え、これを機にファミリー間の結びつきがよりいっそう強くなったことを感じました。

設立計画の段階からおよそ3年、多くの方々の力

ファミリー委員長 戸田 薫

により昨年11月、地区組織として本部から認証を受け、「スペシャルオリンピックス日本・富山」は鉢植えから大地に根を下ろしました。

この若木を大きく育てるためにファミリーは今後、父母兄弟・姉妹など一人でも多くの家族が会の運営に積極的に関わっていかなくてはなりませんか。

会員の拡大・事務分担・行事の企画運営・賛助金集め、さらには周囲へのコーチやボランティアとしての協力要請・行事への参加依頼・・・その他、「自分に来ることはないか?」と、家族全員で考えてみましょう。

多くのファミリーの支えがあってこそ SO の輪が広がり、活動が社会に広く認められていくのではないのでしょうか。

皆様のご協力をお願いします。

■地区組織“SON・富山”発進！

2005年11月5日のイベント“SOデー”に、スペシャルオリンピックス日本（SON）の細川佳代子理事長が来県され、JR富山駅前CiCビル5階の多目的ホールで講演会が開催されました。演題は「スペシャルオリンピックスの魅力」。細川さんがエピソードを交えて語る、健常の人たちの中に知的発達障がいを持った人たちが自然に受け入れられていく社会の実現に向けて、「偏見のない子供たちを育てる教育こそがこれからの日本を変えていく」というお話に、多くの参加者が熱い思いを抱いて聞き入りました。



SON理事長、細川佳代子さんの講演会

引き続き開催された認証式で、SON・富山設立準備委員会は、晴れてSONの正式な地区組織として認められました。



笑顔でサインを交わす細川理事長と山口 SON・富山会長



西日本ブロック競技会に出場したアスリートを励ます細川理事長



福祉関係施設の協力を得て6つのテントは、いろいろな催しで賑わいました



■SON・石川との交流試合

2005年11月27日、正式に地区組織に昇格したSON・富山のアスリートは金沢市で、石川県のフロアホッケー（FH）のアスリートとの交流試合に臨みました。

「お互いに頑張ったね！」 「おお、こんどまたやろう！」



歴史の長いSON・石川のチームは、さすがに上手でした



試合が終わって、互いのチームがセンターラインでハイタッチしながら挨拶する姿は、もう一人前の立派なアスリートに見えました。

■フロアホッケーのコーチクリニック

2005年12月11日、高岡ふれあい福祉センターで、フロアホッケーのコーチクリニック（CC）が開催されました。午前中は SON・長野の宮下さんからゼネラルオリエンテーションを、SON・大阪の花岡さんからアスリート理解の講義を受けました。午後は、花岡さんの奥様も加わり、実技講習でスティックの握り方やパスの受け方などを学びました。



例年より早い雪で会場の外は白銀の世界でしたが、体育館の中は受講者の熱気に包まれていました。コーチクリニックが初めての人や、2回目・3回目の人も含め、27名の受講者があり、新たに11名の新コーチが誕生しました。ファミリーのみなさん、お近くのお友達も誘って今後もコーチクリニックにどんどん参加しましょう。



SOについての概論を SON・長野の宮下さん(左写真)が、アスリート理解に向けた講義を SON・大阪の花岡さんが行いました

■3回目のクリスマス会

2005年12月17日、大雪の中、富山市駅北の自遊館大ホールで、アスリート・ファミリー・コーチ、ボランティアなど100人近くが参加してクリスマス会が開催されました。ファミリーと元富山養護学校ALTのエミリー、山口会長で結成するバンド「ヒマジン」の演奏や、アスリートとファミリーがエネルギッシュに踊った「マツケンサンバⅡ」、ビンゴゲームなどで、楽しい2時間はあっという間に過ぎていきました。



アメリカ人が歌う富山弁の「イマジン」に一同、ビックリ！



全員が上手に腰を“プリプリ”振って、ヤンヤの喝采を受けました

最後は、アスリートを代表してアスリート委員長杉森君が、舞台の上でコーチやボランティアに感謝の気持ちを述べました。「熊本大会を頑張ります！」と力強く宣言し、会はお開きになりました。



アスリートからボランティアの皆様への感謝のことば

■冬季プログラムの練習風景

フロアホッケー（FH）は、8日間で8コマ（1コマ2時間）の練習を富山市と高岡市に分かれて実施しています。アルペンスキーは、極楽坂スキー場で4

日間で8コマの練習をしています。どちらのプログラムも練習の前と後に必ずミーティングを開き、練習方法や練習成果などを打ち合わせながら進めます。



富山FHでは、実践に即した試合形式の練習も取り入れています



ベテランのコーチも、小さなアスリートには板を履く前の“心の準備”に力を入れます



■参加者の声

★ 笑顔を求めて！

息子がSONの活動に参加したのは2004年の春で、当時小学部2年生。フロアホッケーのお試しプログラムに参加したときの私の感想は、正直言って「場違いだ！」でした。練習もせずに走り回るわ、脱走するわで、落ち着きがなく大変でした（今も大して変わらないが…）。でも家の中で悶々としているより、外に出ているんな経験をした方がいい。動機は「出会い」を求めてでしたから。

1年目は会場に行くだけで練習なんてサッパリでしたが、めげずに参加し続けることによって、息子は他人様からたくさんの刺激を頂戴し、大いに成長しました。「ヤツデ好きの脱走小僧がいる」というのを分かっただけかもしれないですが、息子の行状をそのまま受け入れてくれたスタッフ&コーチに感謝・感謝・感謝です。



ファミリー 尾山正和

2年目はフロアホッケー・水泳・陸上に挑戦。1年目と違い、やる時はやる…っていう姿勢が見られました。シュートやパスなんてしないものだと思っていたのに、結構真面目にやったりもする。「目からウロコ、継続は力なり」と、そう思った一瞬でした。

私自身も水泳や陸上競技を子供達に教える機会が増え、少しずつですが、息子から距離を置いて参加できるようになりました。同競技の経験がある分、どうしても専門的な教え方になってしまいがちですが、スポーツを楽しむという前提を忘れずに、できなかったことができた時の喜びや記録が伸びる時の楽しみを教えることができたと思っています。

今は、昨年9月の西日本ブロック競技会の表彰台に立った時の子供達の誇らしげな顔がどうしても忘れられません。「あの笑顔を見るために私はここに来たんだ」と思いました。これからも息子だけでなく、参加している子供達の可能性を探り出し、また能力を引き出せるよう頑張っていきます。

★ SON 富山のみなさん、ありがとう

2002年12月、兵庫県から転入。不安や寂しさの中からスタートした富山での生活でしたが、多くのすばらしい出会いに恵まれて、4年が経過し、今日に至ります。しかし、このたび、再び兵庫に転居することになりました。スペシャルオリンピックスでは、約2年間、水泳、フロアホッケー、陸上、スキーのプログラムに参加させていただきました。さらに、設立準備委員会からSON・富山となった記念すべき時期であったため、トーチランと選手宣誓、西日本ブロック競技会出場などの貴重な経験をさせていただきました。お世話になったすべての方々に深く感謝申し上げます。

S0に参加する以前は、身体を動かす機会の少ない娘の生活を心配し、ジョギング、サイクリング、スキーなどを母娘二人で細々と取り組んでおりました。しかし、私の思いとは裏腹で、娘は何の目的もなくやらされているだけで、お互いに全く楽しくないのです。その娘が、S0のプログラムには、楽しんで参加しています。娘の場合、スポー

ファミリー 本間恭子

ツを楽しむというよりも、人との関わりを楽しんでいるようで、そばで見ている私は、わがままで勝手な娘の振る舞いに気をもんでおりましたが、とにかく、娘はカレンダーを見ながら次のプログラムの日を心待ちにしているのです。また、街で偶然に仲間のアスリートと出会い、声を掛け合うという、なんとも微笑ましい場面もありました。私も、先輩ファミリーから学ぶところが多く、大変心強く思うことしばしばでした。このように、SON・富山のおかげで、仲間のいることのすばらしさ・ありがたさを実感いたしましたし、娘も私も生活が楽しく豊かになった気がします。

今まさに躍動しているSON・富山とお別れしなければならぬことは、大変残念でなりません。SON・富山のますますのご発展をお祈りしつつ、またどこかで皆さんにお会いできることを楽しみにし、これからの生活を歩んでいきたいと思っております。皆さん、本当にありがとうございました。お元気で。

★ SONに参加して

ぼくは、SONに参加して約2年になります。最初は、フロアホッケーに参加しました。フロアホッケーという名前を聞くのも初めてだったので、とても不安でした。でも、コーチの人たちが優しく教えてくださり、すごく楽しく参加することができ、それからは、フロアホッケーの日が待ち遠しくなりました。今は、夏はボーリングと陸上、冬はフロアホッケーに参加しています。

去年は、西日本ブロック競技会があり、ぼくは

アスリート委員長 杉森建彦

陸上競技の100m走とソフトボール投げに出場しました。100m走では銅メダル、ソフトボール投げでは金メダルを取ることができました。メダルをもらうのは初めてだったので、とてもうれしかったです。

ぼくは、「ふじなみ」という作業所で、しいたけの栽培の仕事をしています。休みの日に、SONでみんなといっしょに運動することはとても楽しく、ずっと続けていきたいです。

★ 感動、そして今思うこと

「スペシャルオリンピックスって何?」「オリンピックス? 複数なんだ」「スペシャル? 特別な?」私がスペシャルオリンピックスに抱いた第一印象は、疑問ばかりでした。

練習が始まってからも、戸惑うことは多々ありました。特に高岡養護学校以外の学校から来ている子どもたちとの接し方には、四苦八苦しました。1ヶ月に1、2度しか接しない子どもたちとどのように関係を築いていくかということに、最も心を砕きました。

手探りで、ただがむしゃらに、目の前にいる子どもたちとともに練習を重ねてきました。土曜日の正規の練習、二上青少年の家での合宿。練習開始当初はコミュニケーションがなかなかとれずにいた子どもも、いつしかこちらの声に耳を傾けてくれるようになりました。少しずつ、しかし確実に、子どもたちとの関係は築かれていきました。それでも石川県で開催される西日本ブロック大会への不安が消えることはありませんでした。

ボランティアコーチ 野村 学

子どもたちの力がまるで及ばないのではないかという不安。大きなトラブルなく無事に帰ってこられるのかという不安。ところが、大会を見てそんな不安は消え去りました。健気に、懸命に泳ぐ子どもたちの“激泳”には胸を熱くさせられました。

人の心を動かし、感動させられるということは、なんと偉大なことでしょうか! それは、一人の人間が一つのこと懸命に取り組み、精一杯努力するからでしょうか。そこに競技レベルは関係ありません。昨年9月、子どもたちは確かに人の胸を熱くさせたのです。

願わくは、子どもたちが一つのこと更に真剣に取り組み、努力を積み重ねていける機会にできるだけ多く恵まれますように…。それは必ず、子ども自身の成長につながるはずで。そして、こんな感動にできるだけ多くの人が出会えばよいと思っております。

★ 楽しい仲間づくりのために

2005年11月5日、日本で28番目の地区組織が富山に誕生しました。会則が定められ、役員が選出され、本格的な「組織」としての活動の始まりです。今まで「なんとなく」みんなで分担してきたことも、活動が本格的になるにつれ「しっかりとした」分担が必要になってきたように思います。1年だけの活動であれば、一人でアレもコレも、毎日・毎週だって活動できるかもしれません。でも今後は、たくさんの人たちが協力してやっていかなくてはなりません。

そこでよく耳にするのが「ボランティアの充実」です。ボランティアの輪が広がると、その数だけ「楽しさ」や「充実感」も増えます。どのようにしてボランティアの輪を広げていくのでしょうか？ 知人を誘うと「私にはできない」と言われてしまいます。どうしたら「楽しそうだね」と言ってくれるようになるのか、考えていかなくてはなりませんね。

★ メディカルチェックと保険について

医療・安全対策委員会は、数あるSON・富山の委員会の中でも、もっとも地味な委員会と言えるでしょう。しかしながら、日常のプログラムや合宿、競技会に、アスリートが安心して参加でき、また親御さんたちが安心して送り出せる、そのような環境を創り出すためになくてはならない仕事をしています。

全てのアスリートは、プログラムへの参加にあたって、「メディカルチェック」を受けることが要求されます。メディカルチェックの様式には、いわば、問診票に相当するものと、医師が記入する診断書のようなものが含まれています。これらの書類を通して、ヘッドコーチは個々のアスリートについて理解を深めることができます。特に、合宿や競技会では、アスリートは親元を離れ、コーチのもとに預けられ



高岡FHの練習会場でアスリートを診察する医師の柴田委員長



ボランティア委員長 野尻知子

ボランティア委員会では6月にバーベキューを計画しています。アスリート・ファミリーの参加はもちろん、これまでの大会やプログラムで活動しているボランティアのみなさんもぜひ参加してください。S0では、プログラムごとに活動場所が異なるため、お互いに顔を合わせるチャンスが少ないと言えます。私たちボランティア委員会が企画するいろいろな活動が、プログラムを離れた「交流の場」になればと願っています。

ボランティア委員会は今後、参加者同士がこのような「交流の場」で出会って末永くお付き合いできるような、S0の活動を魅力あるものにしていきたいと考えています。一度参加したら、また行きたくなるような、そして、やめられなくなるような魅力を、「ボランティアの輪」を通して少しでも広げていけるよう頑張ります。

医療・安全対策委員長 柴田和彦

ることになりますので、メディカルチェックから得られる情報は重要です。

また、スポーツには怪我はつきもの（本来あってはなりません）。万が一に備え、傷害保険への加入をお願いしています。学童・生徒の方は既に団体で加入しておられる場合が多いと思いますが、もし、未加入の方がいらっしゃいましたら、知的障害者用の保険がありますので、ご相談ください。健康保険証と傷害保険加入証のコピーを、メディカルチェックの用紙と一緒に提出お願いします。

その他、委員会に何かご要望がありましたら、委員長・柴田、または副委員長・八木までご連絡ください。



富山FHの練習会場でアスリートを診断する八木医師（八木副委員長のご主人）

■「勇気の翼フロアホッケー大会」が開催されます

正式名称は「スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野メモリアル第1回フロアホッケー大会」と長すぎるので、愛称を「勇気の翼フロアホッケー大会」にしたようです。

その趣旨は、「世界大会が開催された地に全国のスペシャルオリンピックスアスリートとコーチ、開催地の小・中学生、ボランティアが集い、勇気を出して挑戦し、そして友情を育むこと。フロアホッケー競技の指導者育成と競技体験の機会を提供することによって、フロアホッケー競技がスペシャルオリンピックスのプログラムはもとより、広く普及されていくこと。また、知的発達障害のある人となない人が一緒にチームで競技することによって、互いの違いを認め合いながら、共に生きる社会が広がること等の思いを日本全国に発信すること」を目的としています。

日程は、2006年4月21日(金)～23日(日)の3日間で、会場は一昨年ナショナルゲームに出場したときの思い出がなつかしい(なんだかずいぶん昔のよ

スポーツプログラム委員長 澤田守弘

うに思えますが)、長野市真島総合スポーツアリーナ“ホワイトリング”です。もちろん世界大会のフロアホッケー会場ともなりました。

この大会には、S0のアスリートだけではなく、長野県内の小・中学校からもエントリーしてくるようです。予定参加人数は、アスリート300名、小・中学校340名、競技役員・ボランティア200名、単種目の競技会としてはかなり規模の大きいものになりそうです。もちろんSON・富山からも1チームがエントリーする予定です。

また、S0独自の競技として誕生したフロアホッケーですが、広く一般の方々への普及を目指して「日本フロアホッケー連盟」も今回設立の予定だそうです。いろいろな意味で、理解が深まってきていることを感じずにはられません。

長野と言えども4月も下旬であれば、そんなに足場は悪くないと思います。みなさん、ぜひ応援に駆けつけてください。

■障害・福祉全般

★ 障がい者の就職と「福祉工場」

障がい者の方で働く意欲と作業能力をもちながらも、職場環境や通勤などの諸事情によって一般企業へ採用が叶わない方は少なくありません。障がい者の就労問題については、私は、授産施設と一般企業との中間に位置づけることができる「福祉工場」が、富山県には非常に少ないと考えています。

福祉工場とは、障がい者の方たちのために環境の整った職場と住居を用意し、自立生活のもとに、働く喜びを通して社会参加を推し進めるための福祉施設です。福祉工場が一般の授産施設と大きく異なる点は、障がい者の方を「雇用」して適正な賃金を支払おうとする運営姿勢にあると言えます。多くの福祉工場では事業部門に独立採算方式が採り入れられ、より企業色の強いものとなっています。このような形の福祉工場は現在、全国で100ヶ所以上が開設されています。

ある他県の福祉工場は自社製品を開発し、一般消費者をターゲットとして「売れるもの」を生産しています。どうすれば障がい者でも能率よく仕事で

財務委員長 村中大治

きるかについて、使いやすい道具などを考えたりして、ある程度重度の方でも効率を高めるような取り組みをしている施設も見受けられます。

施設にもよりますが、賃金で見ると一般の授産施設は大概是、1ヶ月1万円以下と言えます。特に内職的な作業が多い授産施設や作業所では、賃金が高い傾向があると言えます。企業の労働問題としては最低賃金の問題が大きいですが、労働基準監督署との話し合いで最賃除外をしてもらうなどの措置により、まずは事業運営を軌道に乗せようとしているところもあります。そこでは一般的な授産施設での賃金を大幅に超えて、1ヶ月数万円の賃金を確保しているそうです。

たいていの福祉工場では工場と一緒に通勤寮なども併設していて、住んで働けるようになっています。このような「福祉工場」が、北陸では福井県にあります。私は、障がい者を子にもつ親として、富山県においても、このような施設を社会福祉法人で立ち上げなければならぬと痛感しています。

■これからの行事予定

開催日	イベント名	開催場所
2/25	アルペンスキーコーチクリニック	極楽坂スキー場
4/15・16	長野WG合宿	二上青少年の家
4/21・22・23	冬季世界大会・長野メモリアル第1回フロアホッケー大会	長野市真島総合スポーツアリーナ
5/14	チャリティコンサート	高岡駅前 WingWing
10/10	SON 石川との合同競技会	城光寺陸上競技場
10/22	S0 デーイベント	県民公園太閤山ランド
11/3・4・5	2006年夏季ナショナルゲーム・熊本大会	熊本市

■事務局から

SON・富山の運営委員会は、毎月5日と20日に、それぞれ富山市と高岡市で開かれます。プログラムや競技会の日程や進め方、コーチクリニックや説明会等の他、イベント企画、ボランティアの募集や広報など、あらゆる活動の計画や実施方法を検討・決定していきます。

右の写真は、2006年2月8日、射水市で開催された、スポーツプログラム委員会と運営委員会の合同会議の様です。



<賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2005年10月~2006年1月)>

敬称略

	お名前	金額	お名前	金額	お名前	金額
個人賛助	青井 末子	3,000円	浅野 盛二	9,000円	五十嵐 務	3,000円
	五十嵐 星子	3,000円	石黒 小百	3,000円	石黒 芳子	3,000円
	石仙 美幸	3,000円	磯部 悦子	3,000円	今 裕一	3,000円
	今村 外二	3,000円	上田 明美	10,000円	内山 隆一	3,000円
	円仏 和司	3,000円	大井 輝子	3,000円	大野 さよ子	3,000円
	尾山 正和	3,000円	神島 健二	3,000円	神島 辰枝	3,000円
	神島 雅諭	3,000円	小柴 昌恵	3,000円	斉藤 久雄	3,000円
	笹井 美保	3,000円	笹井 隆康	3,000円	笹井 大生	3,000円
	佐々木 啓三郎	10,000円	佐々木 陽子	10,000円	澤田 一将	3,000円
	柴田 和彦	3,000円	柴田 万希子	3,000円	柴田 真成	3,000円
	高田 裕一	6,000円	高畑 武志	3,000円	竹森 圭子	3,000円
	蓼原 亮一	3,000円	槻 栄一	3,000円	常木 育美	3,000円
	常木 くるみ	3,000円	中林 博	3,000円	中村 ゆかり	3,000円
	長山 裕一	10,000円	西野 彰	3,000円	野尻 忠幸	12,000円
	野末 友枝	3,000円	野末 伸子	3,000円	開 裕貴	3,000円
	平田 康子	3,000円	藤原 則夫	3,000円	鋪田 博紀	3,000円
	堀 潤子	3,000円	前根 治郎	3,000円	増岡 良彦	3,000円
	松田 順子	3,000円	宮崎 美代	9,000円	宮林 隆夫	3,000円
	村上 和久	3,000円	村中 洋介	3,000円	村中 洋子	3,000円
	森 順子	3,000円	森田 妙子	3,000円	八木 信一	3,000円
矢後 裕之	3,000円	山田 孝哉	3,000円	吉田 久恵	3,000円	
吉田 真知子	3,000円	吉田 満	3,000円	吉村 征次郎	3,000円	
企業・団体賛助	株式会社高田電機	10,000円	株式会社ミカド電機	10,000円	北酸株式会社	100,000円
寄付金	ソニー生命ボランティア有志の会	200,000円	J A I F A			12,821円
	全日本女子テニス連盟富山県支部	5,900円	アステラス製薬(株)			30,000円
その他	三菱レイヨン株式会社富山事業所 体育館提供					

ありがとうございました。

賛助金

<個人> 一口 3,000円
<企業・団体> 一口 10,000円

※ お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスでお願いします。

賛助金・寄付金振込先

スペシャルオリンピックス日本・富山
北陸銀行本店(店番101) 普通預金 5207770

印刷協力 北陸ゼロックス株式会社

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX



ApeosPort C6550 I

卓越した性能を備えた
“知的フィールド
への入り口”

北陸ゼロックス株式会社
本社 金沢市中橋町11番18号
TEL(076)280-0900 FAX(076)280-0901
<http://www.fujixerox.co.jp/hzx/>